

科目6

精神保健福祉の相談支援

講義6-2

連携を円滑にすすめるためのコツ

行政における連携の困難さ

- 法的根拠に基づいて業務が行われる＝セクショナリズムが発生しやすい
- 情報の取扱い(行政だからこそ知る情報がある一方、提供できない情報もある)
- 様々な立場の方から相談を受けるため、関係者間で利害関係が対立することがある
- 専門職以外との連携の機会が多い
- 心理的依存や期待の高さ(対応して当たり前と思われてしまう)

連携のコツ①(心構え)

- 相手を知ること、認めること
(機関の機能と限界・専門性)
- 共有すべきは目的・目標
- 批判ではなく**労いの気持ち**を持つ
- まずは**自分から**動く
 - ・100は無理でも0を1にできるかもしれない
- **一緒に**考え、悩み、汗をかく(姿勢を見せる)
- **身近な人や機関から**始める
 - ・見返りを求めず「情報共有」から(電話一本から)
 - ・自分の存在を知ってもらう

連携のコツ②(連携の実際)

- **横串**(庁内関係部署や市町村の関連機関との横断的連携)と**縦串**(外部の機関との連携)を意識
- フォーマル・インフォーマルを問わず、幅広い人々・機関と連携
- 関係機関にも**メンタルヘルスの視点を持ってもらう**ように働きかけ、生活支援を充実
- **連携先の機関が動きやすくなる**ためには何ができるかを考えることが有効な連携にとっては重要
- **日頃から密に連携**

連携のコツ③(工夫)

- 顔の見える関係性
 - ・顔を合わせて話す→安心感と信頼
 - ・直接話す→本音かつ多くの情報をやりとり
- 専門職以外にもわかりやすい説明
- バトンを渡すより、同じ場面の共有
- 事前の打合せと根回しの重要性
- 相手が知りたい情報、必要な情報を届ける
- 地域からの「声」には可能な限り反応(対処)
- 他分野・他職種との連携は大歓迎

連携のコツ④(留意点)

- 情報のひとり歩き(個人情報取扱い)
- 丸投げにならないようにする
 - ・どうしても行政→民間(委託先)の上下構図が作られやすい
- 他人任せにせず、自分でできることを準備しておく
- 役割分担をはっきりする
 - ・誰がマネジメントするのかを意識する

連携のコツ⑤(タイミング)

- 早めの相談で、課題の整理や今後の支援の方向性を確認
- 保健所と相談することで適切な医療機関に協力を求めることができる場合がある。(医療で問題が全て解決するとは限らない。生活支援の課題については、障害福祉サービスの導入など、市町村での対応を検討することは大切)
- 担当者としてどのような動きをすれば、他の機関の支援が行いやすいのか、自分たちができることは何か、どのようなサポートがあれば支援がうまく回るのか、という意識を持ちながら支援に関わる。

ご視聴ありがとうございました。

続いて、

【講義6-3】多職種・多機関の連携事例
の動画をご覧ください。